DR-735 の色設定について

本機の液晶は細かなカスタマイズができる分、思い通りに色を表示させるには複数の操作が必要になります。以下、例を上げてステップバイステップでご説明します。

【お願い】

色設定を手動で行うには動作に関する理解と慣れが必要です。これらを試すには、オールリセット（説明書Ｐ．７０、MW，★、Ｈ／Ｌキーをすべて押しながら電源を入れる）をして、初期状態から操作されることをおすすめします。このため、この操作練習は他の運用設定をする前に行ってください。

【リセットについて】説明書Ｐ．７０

色の設定をしてから「消したい、戻したい」が思うようにできないと面倒ですので、先にリセットとレストア機能についてご説明します。

１．ノーマルリセット：セットモードの値がリセットされるので、色の関連付けも、カラーメモリーチャンネルも消えます。但し、リセット前にメモリーチャンネルに色を登録していた場合、セットモードのメニュー番号９カラーモード切り替えを MEMORY に戻すと、リセット前に登録していたメモリーチャンネルはリセット前の色が使えます。

２．ＶＦＯリセット：トーンやパワー、シフト設定だけをリセットするので、色の関連付けやＲＧＢカラー設定は残ります。

３．メモリーリセット：メモリーチャンネル自体が消えるので、メモリーチャンネルごとに設定した色データもすべてなくなります。但しリセット前にセットモードのメニュー番号９～１２で設定したカラーモード切り替え、ＳＢ，ＲＸ，ＴＸの色指定は残っているので、新たに書くメモリーは以前にカスタマイズした色の状態で登録できます。

４．オールリセット：すべての設定が初期化されます。レストア機能（Ｐ．４７）を使っていなければ、色設定を修復することはできません。メモリーチャンネルも消えてしまいます。

【レストア機能について】

好みの色状態になったとき、Ｐ．４７のレストア機能でセーブしておくと、部分的にですがリセット後でも色関連設定を修復することができる場合があります。ただ条件が多岐に及ぶ事、それを表にしてもとても見づらくなることから敢えて省略させて頂きます。以下のテストパターン登録後、レストア操作をして自分で確かめてください。色状態を無条件に修復する機能や操作はありません。

パターン１：ＶＦＯモードでもメモリーモードでも、周波数帯も関係なく、右と左の表示色は常に決めた色を使う。

【色の例】

・右の待ち受けＣＬ１レッド、左の待ち受けＣＬ２グリーン

・右の受信ＣＬ４イエロー、左の受信ＣＬ３ブルー

・右の送信ＣＬ６ライトブルー、左の送信ＣＬ５パープル

【レストア】照明色切り替え（セットモード番号１０～１２）は修復されますが、カラーメモリーチャンネルＣＬ０～ＣＬ９は初期値の色、ＣＬＡ～ＣＬＦはホワイトに戻ります。Ｐ.６１のＲＧＢカラー設定を参考にカラーメモリーチャンネルを新たな色に調光すれば、それが新たに反映されます。

【操作】

　ＦＵＮＣキーを長押しして、セットモードに入る。説明書Ｐ．４１を参照してメニュー番号０９が出るまで右や左のダイヤルを押す。ＣＬＭＯＤＥが表示されたら右ダイヤルを回してＡＬＬを選ぶ。（以下Ｐ＊＊は説明書のページ数）

①　右側ダイヤルを押すとＰ．４１のメニュー１０状態になる。右側ダイヤルでＳＢ　ＣＬ１レッド、左側ダイヤルでＳＢ　ＣＬ２グリーンを選ぶ。

②　右側ダイヤルを押すとＰ．４２のメニュー１１状態になる。左側ダイヤルでＲＸ　ＣＬ３ブルー、右側ダイヤルでＲＸ　ＣＬ４イエローを選ぶ。

③　右側ダイヤルを押すと同じくメニュー１２状態になる。左側ダイヤルでＴＸ　ＣＬ５パープル、右側ダイヤルでＴＸ　ＣＬ６ライトブルーを選ぶ。マイクのＰＴＴを押し、設定を確定して、運用状態に戻る。

待ち受け　　受信　　左　送信

右　送信

【参考】

スケルチを開放にすれば、受信時の色が確認できます。送信色を確認するにはＰＴＴを押すので、アンテナをつないで試験電波を発射するか、ダミーロードをお使いください。

パターン２：ＶＦＯモードでもメモリーモードでも 144MHz 帯、430MHz 帯、エアバンドは左右に関係なく決めた色を使う。

【色の例】

・１４４ＭＨｚの待ち受けＣＬ１レッド、４３０ＭＨｚの待ち受けＣＬ２グリーン、エアバンドの待ち受けＣＬ３ブルー

・１４４ＭＨｚの受信ＣＬ４イエロー、４３０ＭＨｚの受信ＣＬ５パープル、エアバンドの受信ＣＬ６ライトブルー

・１４４ＭＨｚの送信ＣＬ７オレンジ、４３０ＭＨｚの送信ＣＬ８ピンク

【操作】

①　ＶＦＯモードでボリュームツマミを長押しして、左右とも１４４ＭＨｚ帯が表示される２波同時受信状態にする。

②　ＦＵＮＣキーを長押しして、セットモードに入る。メニュー番号０９が出るまで右や左のダイヤルを押す。ＣＬＭＯＤＥが表示されたら右ダイヤルを回してＭＥＭＯＲＹを選ぶ。

③　右側ダイヤルを押してメニュー番号１０にする。右側も左側もダイヤルを回してＳＢＣＬ１レッドを選ぶ。

④　右側ダイヤルを押してメニュー番号１１にする。右側も左側もダイヤルを回してＲＸ　ＣＬ４イエローを選ぶ。

⑤　右側ダイヤルを押してメニュー番号１２にする。右側も左側もダイヤルを回してＴＸ　ＣＬ７オレンジを選ぶ。

マイクのＰＴＴを押して設定を確定して、運用状態に戻る。表示は赤になっている。

⑥　　両方のボリュームツマミを長押しして、エアバンド帯の２波同時受信状態にする。

⑦　　上記②～⑤を繰り返し、色をそれぞれ左右ともＳＢ　ＣＬ３ブルー、ＲＸ　ＣＬ６ライトブルーにする。

マイクのＰＴＴを押し、設定を確定してＶＦＯモードの運用状態に戻る。

⑧　ボリュームツマミを長押しして、430MHz 帯の 2 波同時受信状態にする。

⑨　上記②～⑤を繰り返し、色をそれぞれ左右ともＳＢ　ＣＬ２グリーン、ＲＸ　ＣＬ５パープル、ＴＸ　ＣＬ８ピンクにする。

マイクのＰＴＴを押して設定を確定して、ＶＦＯモードの運用状態に戻る。

ＶＦＯモードで左右を切り替え、好みの設定になったことを確認する。

【参考】この設定でメモリーを登録すれば表示の左右に関係なく、各周波数帯のメモリーチャンネルにこの色設定が反映されます。メモリーを使うので、レストア機能で修復できる色設定には制限が生じます。

＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝

パターン３：複数の共通メモリーチャンネルに異なる色を記憶させたあと、ＶＦＯモードの色も変更する。

【設定の例】

・１４５．１００、待ち受けＣＬ１レッド、受信ＣＬ２グリーン、送信ＣＬ３ブルーをＣＨ０００にメモリー

・４３３．２００、待ち受けＣＬ４イエロー、受信ＣＬ５パープル、送信ＣＬ６ライトブルーをＣＨ００１にメモリー

・ＶＦＯの色設定を左右とも待ち受けＣＬ７オレンジ、受信ＣＬ８ピンク、送信ＣＬ９ライトグリーンに変更（変更前はすべてＣＬ０ホワイト）

【操作】

① 左のＶＦＯモードでダイヤルを回し、１４５．１００に合わせる。１４５．１００が表示される。

② ＦＵＮＣキーを長押しして、セットモードに入る。右や左のダイヤルを押して、メニュー番号０９を表示させる。ＣＬＭＯＤＥが表示されたら右ダイヤルを回してＭＥＭＯＲＹを選ぶ。

③　マイクのＰＴＴを押して、運用状態に戻る。ＦＵＮＣキーを押して、メモリー番号が表示されたら１４５．１００が出ている側のダイヤルを回して０００を選び、同じ側のＶ／Ｍキーを押す。ビープ音が鳴って、０００が消える。

④　どちらかのＶ／Ｍキーを押してメモリーモードに入り、０００（ｃｈ）を呼び出す。

⑤　ＦＵＮＣキーを長押ししてセットモードに入り、メニュー番号１０が出るまでダイヤルを押して、０００を表示させた側のダイヤルを回してＳＢ　ＣＬ１レッドを選ぶ。

⑤　右側ダイヤルを押してメニュー番号１１で、０００を表示させた側のダイヤルを回してＲＸ　ＣＬ２を選ぶ。

⑥　右側ダイヤルを押してメニュー番号１２で、０００を表示させた側のダイヤルを回して
　　ＴＸ　ＣＬ３を選ぶ。

⑦　マイクのＰＴＴを押して設定を確定して、運用状態に戻る。０００表示側（メモリーモード側）はレッドになっている。

⑧　　ＦＵＮＣキーを押し、メモリーモード側（０００が出ている側）のダイヤルを押す。ビープ音が鳴る。（メモリー上書きをする）

⑨　　メモリー番号が出ているほうのＶ／Ｍキーを押してＶＦＯに戻る。表示はホワイト（ＣＬ０）に戻っていることを確認。

⑩　右のＶＦＯモードでダイヤルを回して４３３．２００を表示させる。

⑪　ＦＵＮＣキーを押して、メモリー番号が表示されたら４３３．２００が出ている側のダイヤルを回して００１を選び、同じ側のＶ／Ｍキーを押す。ビープ音が鳴って、００１が消える。

⑫　どちらかのＶ／Ｍキーを押してメモリーモードに入り、００１（ｃｈ）を呼び出す。

⑬　ＦＵＮＣキーを長押ししてセットモードに入り、ダイヤルを何回か押してメニュー番号１０を表示させ、００１が出ていたのと同じ側のダイヤルを回してＳＢ　ＣＬ４イエローを選ぶ。

⑭　右側ダイヤルを押してメニュー番号１１で、０００を表示させた側のダイヤルを回してＲＸ　ＣＬ５パープルを選ぶ。

⑮　右側ダイヤルを押してメニュー番号１２で、０００を表示させた側のダイヤルを回してＴＸ　ＣＬ６ライトブルーを選ぶ。

マイクのＰＴＴを押して設定を確定して、運用状態に戻る。００１表示側（メモリーモード側）はイエローになっている。

⑯　ＦＵＮＣキーを押し、メモリーモード側（００１が出ている側）のダイヤルを押す。ビープ音が鳴る。（メモリー上書きをする）

⑰　メモリー番号が出ているほうのＶ／Ｍキーを押してＶＦＯに戻る。表示はホワイト（ＣＬ０）に戻っていることを確認。

この状態でメモリー運用したい側のＶ／Ｍキーを押すと、メモリー番号が表示されるので、０００と００１をダイヤルで切り替えて色が指定したように変化することを確認する。

⑱　メモリー側のＶ／Ｍキーを押して左右ともＶＦＯ状態にする（液晶色はＣＬ０ホワイト）。ＦＵＮＣキーを長押ししてセットモードに入り、ダイヤルを何回か押してメニュー番号１０を表示させ、左右ともダイヤルを回してＳＢ　ＣＬ７オレンジを選ぶ。（もしこの時、左右で色を変えたければ、好みの色を選ぶ）

⑲　右側ダイヤルを押して、メニュー番号１１で左右ともダイヤルを回してＲＸ　ＣＬ８ピンクを選ぶ。（もしこの時、左右で色を変えたければ、好みの色を選ぶ）

⑳　右側ダイヤルを押して、メニュー番号１２で左右ともダイヤルを回してＴＸ　ＣＬ９ライトグリーンを選ぶ。（もしこの時、左右で色を変えたければ、好みの色を選ぶ）

マイクのＰＴＴを押して設定を確定して、運用状態に戻る。待ち受け状態ならＶＦＯモードは左右ともオレンジ色になっている。Ｖ／ＭキーでＶＦＯモードとメモリーモードを切り替え、好みの状態になったことを確認する。

【参考】

・上記 3 つのパターンをご理解いただければ、例えば自分で作ったＣＬＡからＣＬＦの色を使うようなアレンジができます。メモリーを使うので、レストア機能での修復には制限が生じます。

色設定は、ごらんのように複雑です。従い、お電話で登録の仕方をお問い合わせ頂いても、サポートはできません。この資料の無償郵送をもって説明に変えさせて頂いておりますので、予めご了承ください。

アルインコ（株）電子事業部

以上

ＦＮＥＩ－ＥＦ